

未来



全労協・郵政産業労働者
ユニオン長崎中野支部
機関紙「みらい」
NO. 4602
25年12月5日(金)
Tel・Fax 095-828-1953
文責 支部書記長

依存症は誰にでもなる 可能性がある病気です

おはようございます。
今週初めは20℃を越す気温で、配達中は汗ばむ陽気でしたが、水曜日には真冬の寒さとなりました。インフルエンザも流行していますので体調管理には気をつけましょう。

日本郵便は11月28日、10月に北海道支社(山鼻郵便局)、東海支社(島田郵便局)、九州支社(鹿島郵便局、延岡郵便局)の3支社の4局で「酒気帯び運転」があったと発表しました。

また、道路交通法上の罰則を伴わない、「酒気を帯びた状態での運転」(呼吸1L中にアルコールが0.15mg未満検出される状態)は、北海道支社1件、東北支社1件、関東支社2件、信越支社1件、東海支社1件、九州支社1件、合計7件発生しています。

「酒気帯び運転」「酒気を帯びた状態での運転」はいずれも、前日の飲酒によりアルコール反応が出たもので、通勤中に飲酒をしていたものではなく、また、乗務前の点呼において実施しているアルコール検知により発覚したものであり、業務中の運転には至っていない、と発表しています。



10月期も「酒気帯び運転」と「酒気を帯びた状態での運転」合わせると11件発生しています。日本郵便は不適切点呼問題を受けて毎月飲酒運転の状況を発表しています。

支社は定期的に酒気帯び運転の状況を「未来」に掲載していますが、紙面で酒気帯び運転が無くならないのは「アルコール依存症の社員がいるのでは」と指摘しましたが、その依存症について考えてみます。

依存症とは、ある特定の物事にのめりこみ過ぎて、「やめたくても、やめられない」など日常生活に支障をきたしている状態です。
依存症には「物質への依存」と「プロセスへの依存」があります。

「物質への依存」

物質依存は、体内に取り入れた何らかの物質が脳の中枢神経に作用し、慢性的な摂取が続いたことにより「やめようとしてもやめられなくなつた」状態です。
タバコやニコチン、薬物などの依存があります。が、代表的なのが「アルコール依存」です。



「プロセスへの依存」

特定の行為から得られる刺激や安心感にのめりこみ、やめられなくなつて、日常に支障を生じている状態をさします。ギャンブル依存症などが例に挙げられますが、

近年ではスマホ依存症やゲーム依存なども問題視されています。

どちらにも共通していることは、繰り返す、より強い刺激を求める、やめようとしてもやめられない、いつも頭から離れないなどの特徴がだんだんと出てくることです。
飲酒や薬物使用、ギャンブルなどの行為を繰り返すことによつて脳の状態が変化し、自分で自分の欲求をコントロールできなくなつてしまいます。



依存症は、適切な治療をしないと、量や頻度が増え、進行性の病気です。
依存状態が進んでいくと、本人だけの問題ではおさまらず、家族や周りの人を巻き込んでいきます。家族に嘘をついたり、借金をしたり、飲酒や薬物使用、ギャンブルなどしていることを隠したり

する行為は、よくある依存症の症状です。飲酒や喫煙、ギャンブルなどを止めたくても止めることができない人は意思が弱いだけではなく、依存症の可能性もあります。



依存症は脳の病気であるため、家族などの周囲の人たちでなんとかしようとしても、問題は解決しません。過去に長中局でもギャンブルによる借金で職場を去った社員や、勤務時間中に飲酒するなどして職場を去った社員を見ました。

依存症は誰にでもなる可能性があります。自分は大丈夫ではなく、心当たりがある社員は取り返しのつかないことになる前に、専門の相談機関や医療機関に頼ることで、解決に向かうことができます。問題でもありません。

仲間と競争せず、弱い立場の人と共に団結して闘おう。

期間雇用社員の希望者全員を正社員化する。

めいせ、均等待遇

ななくさ差別！ ユニオンは労基法裁判に勝利するぞ！

